




a 論文審査及び最終試験又は学力確認の結果の要旨

①・乙	氏名	江藤 剛	
学位論文名	Cancer Care for People With Mental Disorders: A Qualitative Survey Among Cancer Care and Psychiatric Care Professionals in Japan		
学位論文審査委員	主査	佐野 千晶	
	副査	深見 達弥	
	副査	角舎 学行	
論文審査の結果の要旨			
<p>がんは精神障害者の主要な死因の一つであり、精神障害者のがん医療における予防、診断、治療、症状管理、終末期ケアのすべての場面で生じている格差の是正は重要である。精神障害者のがん医療における課題は概念としては提唱されていたが、医療従事者が実際に直面している個々の具体的な課題を網羅的に調査した研究はこれまでにない。本研究は、がん医療従事者と精神科医療従事者を対象として、がん診療上の具体的な課題とその解決策について質的に調査した。研究参加者 439 名から回答を得て、61 項目のがん診療上の具体的な課題と 48 項目の解決策が抽出された。この 61 項目の課題は、更に、10 のカテゴリに分類され、以前に提唱された概念と一致して、患者レベル、医療者レベル、システムレベルの課題が抽出された。また、48 項目の解決策は各レベルに対する 12 のカテゴリに分類された。本研究は、精神障害者のがん医療における具体的な課題を初めて網羅的に抽出したものである。今後、格差是正のための介入法を開発するための基盤となる研究であり、学術的に価値が高いと考えられる。</p>			
最終試験又は学力の確認の結果の要旨			
<p>申請者は、専門の医療者を対象に質的調査を行い精神障害者のがん医療における課題と解決法を、探索的網羅的に抽出し導き出した。カテゴリには、患者の意思決定能力、精神科医療側ならびにがん医療側それぞれの課題と解決策、連携、地域システムなどといった多面的な項目が明らかとなった。精神疾患を合併するがん罹患は今後増えてくるものと予想され、この領域の医療に寄与する結果である。質疑応答から関連する知識も豊富であり学位授与に値すると判断した。（主査：佐野 千晶）</p> <p>申請者は、精神障害者のがん医療において医療従事者が実際に直面している課題を初めて包括的に調査した。本研究は、精神障害者のがん医療における格差是正に寄与しうる基礎的研究となる。発表もわかりやすく丁寧に行われ、学位授与に値すると判断した。（副査：深見 達弥）</p> <p>本研究の内容は、精神障害者のがん医療における問題点を明らかにする上で、大変重要な問題である。研究手法、結果および解釈を理解し、本研究の限界と今後の研究課題について十分に考察できており、学位授与に値すると判断した。（副査：角舎 学行）</p>			

(備考) 要旨は、それぞれ 400 字程度とする。